

標 題 : Active Components and Clinical Applications of Olive Oil  
オリーブ油の活性成分および臨床的な応用

---

著 者 : E. Waterman and B. Lookwood (英国 マンチェスター大学 薬学部)

---

掲 載 誌 : Alternative Medicine Review 12(4): 331-342 (2007)

---

要 旨 : オリーブ樹(*Olea europaea*)は、地中海沿岸地方および小アジアの一部の原産である。

その果実および圧搾抽出油は、広い範囲の治療および臨床の応用を有する。

オリーブ油はまた「地中海食事」の主成分を構成する。

オリーブ油の主な活性成分には、オレイン酸、フェノール成分およびスクワレンが含まれる。

主なフェノールにはヒドロキシチロソール、チロソールおよびオレウロペインが含まれ、それはバージンオリーブ油に高い値で存在して、抗酸化活性を示す。

抗酸化物が、オリーブ油の多くの生物学的活性の原因と信じられている。

1価不飽和脂肪酸のオレイン酸は癌予防作用を示しており、さらにスクワレンも抗癌作用が確認されている。

オリーブ油摂取は、結腸癌および乳癌の予防に役に立つ。

その油は冠状動脈性心疾患(CHD)に対する作用、特に血圧およびLDLコレステロールを低下させる能力が広く研究されてきた。

ヒドロキシチロソール、チロソールおよびオレウロペインの抗菌作用が、腸および呼吸器で感染に関与する複数種の細菌に対して実証されている。

大部分の研究はその油に関して実施されているけれども、オリーブ果実全体の摂取も健康的な効能を与えるであろう。

---